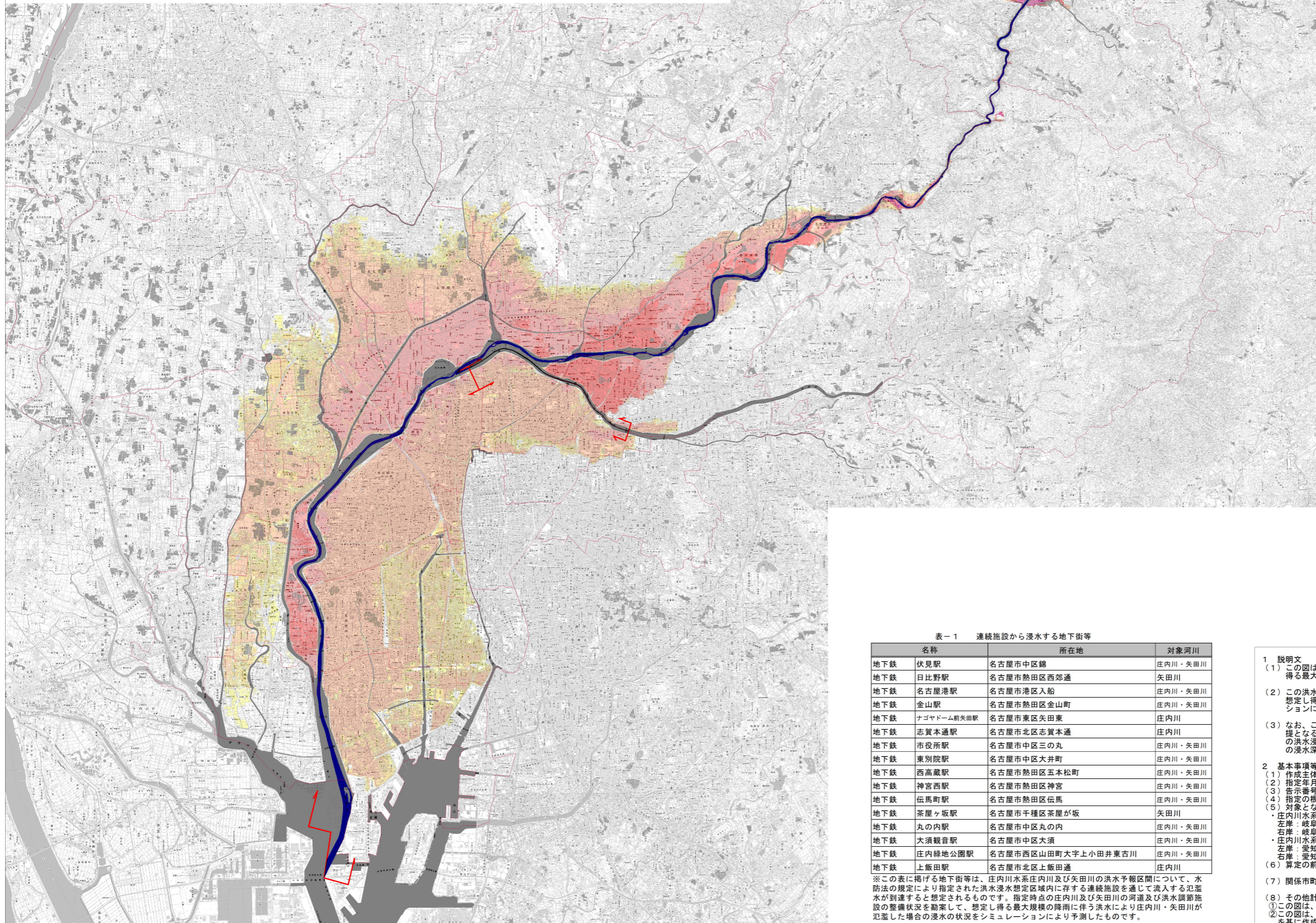
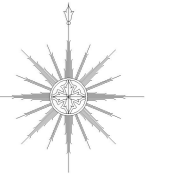


庄内川水系庄内川・矢田川 洪水浸水想定区域図 (想定最大規模)



凡例

浸水した場合に想定される水深(ランク別)

- 10.0～20.0m未満の区域
- 5.0～10.0m未満の区域
- 3.0～5.0m未満の区域
- 1.0～3.0m未満の区域
- 0.5～1.0m未満の区域
- 0.3～0.5m未満の区域
- 0.3m未満の区域

--- 市区町境界

— 河川等範囲

— 浸水想定区域指定の対象となる洪水予報河川

表-1 連続施設から浸水する地下街等

| 名称 | 所在地 | 対象河川 |
|----------------|--------------------|---------|
| 地下鉄 伏見駅 | 名古屋市中区錦 | 庄内川・矢田川 |
| 地下鉄 日比野駅 | 名古屋市中区西郷通 | 矢田川 |
| 地下鉄 名古屋港駅 | 名古屋港区入船 | 庄内川・矢田川 |
| 地下鉄 金山駅 | 名古屋市中区金山町 | 庄内川・矢田川 |
| 地下鉄 ナゴヤドーム前矢田駅 | 名古屋市中区大井町 | 庄内川 |
| 地下鉄 志賀本通駅 | 名古屋市中区三の丸 | 庄内川 |
| 地下鉄 市役所駅 | 名古屋市中区大井町 | 庄内川・矢田川 |
| 地下鉄 東別院駅 | 名古屋市中区大井町 | 庄内川 |
| 地下鉄 西高蔵駅 | 名古屋市中区五本松町 | 庄内川・矢田川 |
| 地下鉄 神宮西駅 | 名古屋市中区神宮 | 庄内川・矢田川 |
| 地下鉄 伝馬町駅 | 名古屋市中区伝馬 | 庄内川・矢田川 |
| 地下鉄 茶屋ヶ坂駅 | 名古屋市中区茶屋ヶ坂 | 矢田川 |
| 地下鉄 丸の内駅 | 名古屋市中区丸の内 | 庄内川・矢田川 |
| 地下鉄 大須観音駅 | 名古屋市中区大須 | 庄内川・矢田川 |
| 地下鉄 庄内緑地公園駅 | 名古屋市中区山田町大字上小田井東古川 | 庄内川・矢田川 |
| 地下鉄 上飯田駅 | 名古屋市中区上飯田通 | 庄内川 |

※この表に掲げる地下街等は、庄内川水系庄内川及び矢田川の洪水予報区域について、水防法の規定により指定された洪水浸水想定区域内に存する連続施設を通して流入する氾濫水が到達すると想定されるものです。指定時点の庄内川及び矢田川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により庄内川・矢田川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。

- 1 説明文**
- この図は、庄内川水系庄内川・矢田川の洪水予報区域について、水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
 - この洪水浸水想定区域図は、指定時点の庄内川・矢田川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により庄内川・矢田川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。
 - なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の（決壊による）氾濫、シミュレーションの前掲となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合は、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。
- 2 基本事項等**
- 作成主体 国土交通省中部地方整備局 庄内川河川事務所
 - 指定年月日 令和2年3月6日
 - 告示番号 国土交通省中部地方整備局告示第36号
 - 指定の根拠法令 水防法（昭和24年法律第193号）第14条第1項
 - 対象となる洪水予報河川
 - ・庄内川水系庄内川（実施区間）
 - 左岸：岐阜県土岐市肥田町浅野字トモチモト807番の3地先三共橋から海まで
 - 右岸：岐阜県土岐市泉町河合字中屋敷532番1地先三共橋から海まで
 - ・庄内川水系矢田川（実施区間）
 - 左岸：愛知県名古屋市中区砂田橋2丁目105番の1地先の宮前橋から幹川合流点まで
 - 右岸：愛知県名古屋市中区東屋敷101番地先の宮前橋から幹川合流点まで
 - 算定の前提となる降雨 庄内川流域（愛知県区間）の24時間総雨量 578mm
庄内川流域（岐阜県区間）の24時間総雨量 637mm
 - 関係市町村 名古屋市、あま市、清須市、北名古屋市、稲沢市、一宮市、春日井市、瀬戸市、小牧市、豊田町、大治町、豊山町、多治見市、土岐市
 - その他計算条件等
 - この図は、庄内川・矢田川の洪水予報区域間で破堤した場合の洪水浸水想定区域図等を図示しています。
 - この図は、庄内川の河口から約3kmより上流において、一定の条件で破堤させたときの氾濫解折計算結果を基に作成したものです。
 - 氾濫計算は、対象区間をおよそ25m間隔の格子（計算メッシュという）に分割して、これを1単位として水深を計算しているため、微地形による影響が反映できない場合があります。
 - 洪水浸水想定区域は、氾濫計算結果から計算メッシュ毎の想定浸水水位を算出し、隣接する計算メッシュとの連続性や連続盛土構造物（道路や鉄道の盛土など）等を考慮して図化しています。

